

# 今、何の病気が流行しているか！

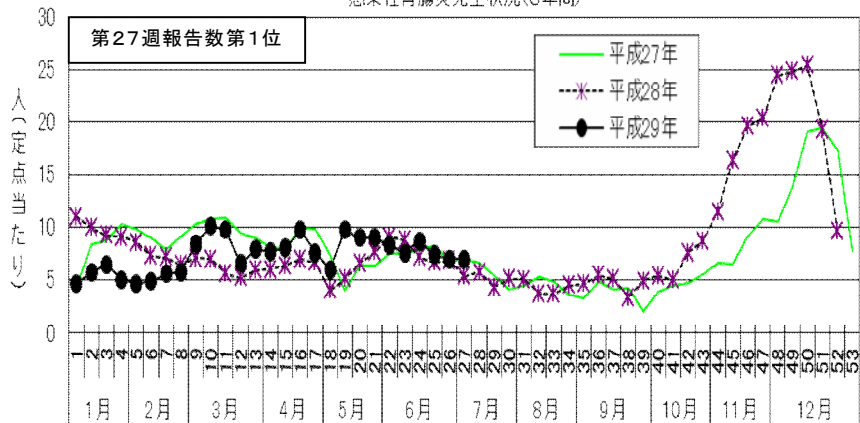
## 【感染症発生動向調査事業から】

平成29年7月3日（月）～平成29年7月9日（日）〔平成29年第27週〕の感染症発生状況

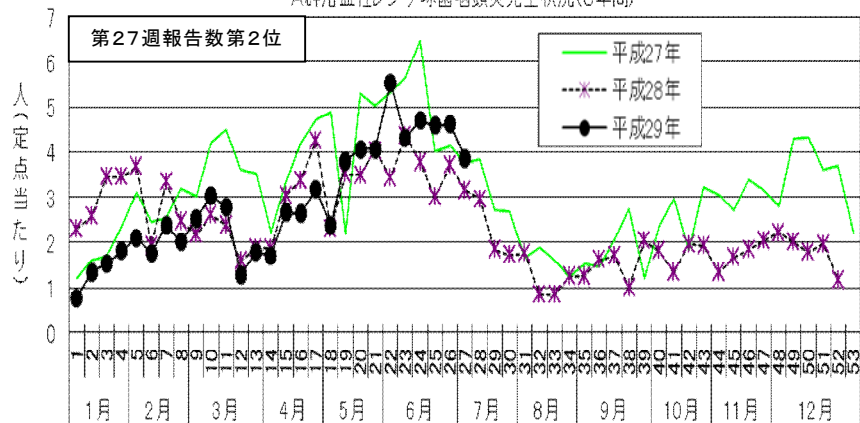
第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.97人と前週（6.94人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.86人と前週（4.61人）から減少し、例年より高いレベルで推移しています。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は2.89人と前週（1.75人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



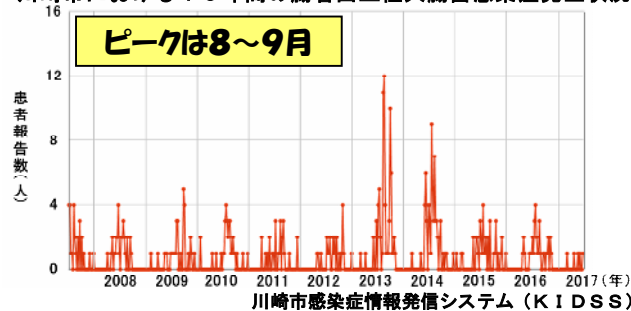
## 気をつけたい感染症～腸管出血性大腸菌感染症～

腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26など）は、基本的には下痢や腹痛などの消化器症状からはじまりますが、毒素を産生する大腸菌の感染によって起こる全身性の疾患です。川崎市では、平成29年は第27週までに5件の届出があり、例年と比較して少ない状況ですが、毎年7～9月にかけて患者数が増加するため、予防対策を徹底しましょう。

### 腸管出血性大腸菌感染症とは？

- **感染経路**：経口感染  
 （汚染された飲食物の摂取や菌が直接又は間接的に口から入ることによって感染）
  - **潜伏期間**：2～14日間（平均3～5日間）
  - **主な症状**  
 腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱など  
 ※小児や高齢者は、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの重症合併症を起こしやすい。
- 激しい腹痛や著しい血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。**

川崎市における10年間の腸管出血性大腸菌感染症発生状況



### 【予防方法】

- ✓ 肉の生食や加熱不十分の肉料理は避ける！（中心部まで75℃で1分間以上加熱）
- ✓ 加熱前の肉には、専用のトングや箸を使う！
- ✓ 調理前、食事の前にはしっかり手を洗う！
- ✓ 動物に触った後には必ず手を洗う！（牛などの反すう動物は、腸管出血性大腸菌を体内に保菌していることがあります。）